



那霸市長選立会演説会（1961年）。左から兼次佐一、西銘順二、宮里栄輝、大宜味朝徳（当選は西銘氏）

開拓した那霸市史刊行事業の最後の通史篇として、戦後の那霸市の歴史を綴った『那霸市史 通史篇第三巻（現代史）』を一月中旬に刊行します。それを記念して、「写真にみる戦後60年」の企画展を開催するにしました。

沖縄戦で米軍に「捕虜され」、着の身着のまま米軍の収容所に送られた市民に居住地への移動が許されたのは、一九四五五年十一月上旬のことです。入市の先頭をきつたのは、生活用品の陶器製造を目的とした壺屋の陶工百余人でした。

もじりに一月ほど遅れて首里市民、翌年二月には小禄村民がそれぞれ帰還しましたが、そのころ南部を転々とさせられていた真和志村民に、故郷の立入禁止が解かれたのは、五月

小禄村、真和志市との合併による那霸市を誕生させ政治・経済ともにめざす沖縄の県都として、新しい発展をとげてきたのです。こうした敗戦後の収容所による米軍占領下の住民生活、そん本復帰前後の政治・経済・文教・激動の沖縄の歴史を、那霸市に「沖縄サミット」まで記録された真を展示したのが本企画展です。

『那霸市史』に掲載された映資料をはじめ、貴重な写真約一二〇点を紹介します。

会期は、一月五日から三月二八日まで。
第二回、四十日曜日、執筆者によるギャラリートークを予定。

歴史博物館 那覇の歴史・文化を体感!⁽⁷⁾

写真にみる戦後60年 ～「那覇市史」（戦後編）刊行記念～



勇気ある行動に拍手 上間小学校の児童に感謝状

小学校に隣接する敷地で発生した火災を発見し、先生方に知らせるとともに、バケツリレーなどで初期消火を行い、延焼を食い止めたとして11月30日、上間小学校と同校4年3組に消防長表彰が行われました。

火災を発見した児童3人は、大田和人消防長から、迅速な火災通報との確かな初期消火活動を称えられ、感謝状を手渡されると、同校の運動場に集合した全校生徒から大きな拍手が送られ、照れながらも誇らしげな表情を浮かべていました。

1月27・28日の両日 消防本部 クリーン推進課の職員と
参加して、廃芥収集車事故救出勉強会が行わされました。
これは、特殊性が高く救出方法が困難な廃芥収集車で事故
が発生した際に、尊い人命を守るため、迅速かつ安全に救出活動
活動が出来るようとの目的で実施されたものです。

同勉強会には、クリーン推進課の職員など約100名と消防本部の救助隊、警防隊が参加したほか、浦添市消防本部の職員も見学に訪れるなど、関心の高さをうかがわせました。

A firefighter wearing a helmet and turnout gear is spraying a powerful stream of water from a hose onto a large green trash bin that is engulfed in flames. The fire is intense, with bright orange and yellow flames visible. In the background, there's a paved area with some trees and a tall street lamp. Another person is visible in the distance near the lamp post.

備えあれば憂いなし じんかい 鹿児収集車事故救出勉強会

作品発表会を通して、障がい者の生きがい作りと社会の障がい者に対する理解を深めることを目的に、那覇市障害者美術展が12月8日から10日までの3日間、県立武道館練成道場で開催されました。

会場には、県内の養護学校などから寄せられた絵画や陶芸、工芸など293点が展示され、訪れた多くの参観者は、障がい者のひたむきな姿、強く生きる力が込められた作品に、熱心に見入っていました。



母精入めた293点

那裏有暗夜彩虹



地球にやさしいライフスタイルを
ロバス
LOHASまつり

企画展「写真にみる戦後60年～『那覇市史』(戦後編)刊行記念」1月5日～☎869-5266 那覇市歴史博物館